

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念の中に「地域」と言う言葉をいれ、今まで以上に地域に基づいたサービスを提供できるように努めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		現状通り取り組んでいきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		現状通り取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		現状通り取り組むと同時に、町内の行事にも積極的に参加し、利用者様が安心して生活できる環境を整えていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		保育園だけではなく、自治会や地域の行事にも積極的に参加していきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		受身ではなく、事業所でも常にアンテナを張り、地域に貢献できるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>外部評価の結果を全体ミーティングで報告している。また、改善できるよう対応している。実際、前回の外部評価の結果から、理念を再検討し、「地域密着」を意識する為、理念の中に「地域の中で」という言葉を加え、地域に密着し、安心して生活ができるよう取り組みという意識を図っている。</p>	<p>外部評価を受け、改めるべき所はすぐに改善し、今以上によりよいグループホームを目指し、日々向上していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>運営推進会議では、日常の活動報告、利用者の現状報告を行い、問題点などある場合は意見交換したり、外部評価や実地指導の結果報告、また、それに対する対応を報告し、参加者から意見を頂き、サービスの向上に活かしている。</p>	<p>引き続き、運営推進会議で参加者から意見を頂き、サービスの向上に活かしていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>生活保護を受給されている方の場合、保護課と連携し、問題が発生した時には相談し、解決また、サービスの向上につなげていくようにしている。</p>	<p>以前は、内部研修の講師としてお招きしたことがあるので、今後も研修などを通じて交流し、サービスの向上につなげていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、研修会があれば参加し、内部研修にて皆で学ぶ機会を持ち、その後資料を回覧し、周知徹底に努めている。利用者様のご家族には、必要と思われる場合に助言している。生活保護受給者の方に関してはケースワーカーに相談している。利用者様の中には、実際利用されている方もおられる。</p>	<p>外部研修の内容を持ち帰り、内部研修で研修報告を行い、全職員のスキルアップにつなげている。また、必要と思われる利用者様や見学にこられた方には、情報提供を行い、活用できるように支援している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>外部研修に参加し、内部研修で皆で学ぶ機会を持ち、その後資料を回覧し、周知徹底に努めている。また、職員間でコミュニケーションが取りやすい職場作りに努めており、日ごろから虐待を見逃さないように注意し、防止に努めている。</p>	<p>研修には積極的に参加し、皆で学ぶ機会を持ち、スキルアップにつなげていきたい。また、引き続き、職員間でコミュニケーションがとりやすい職場作りに努め、職員相互に意見の言いやすい環境にし、日ごろから虐待が予防できるように努めていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>契約・解約時は、時間を十分にとり、必ず文書と口頭で納得していただけるよう説明している。また、質問しやすい雰囲気作りに努めている。</p>	<p>現状通り取り組んでいきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、直接言いにくいことは苦情箱に入れてもらうようにしている。また、話しやすい雰囲気作りに努めており、直接職員に言われることもある。そのような場合、話を聞き、迅速な対応を心掛けている。運営推進会議では、利用者様、ご家族代表にも毎回出席していただき、意見や苦情を話せる機会を設けている。		介護サービス相談員を受け入れていなかったが、本年度は受け入れることができるように整備していきたい。また、意見、不満、苦情に対して、迅速な対応を引き続き心掛けていきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月グループホーム便りを発行し、日々の生活などを報告している。健康状態については、担当職員が状態報告書に詳細に記入し、グループホーム便りと一緒にご家族に渡している。急激な変化があった場合は、直接電話し、状態を報告し、把握していただいている。職員の移動に関しては、来所時に伝えている。金銭管理についても、毎月報告書と領収書を一緒にご家族に渡している。		現状通り取り組んでいきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情箱を設置している。また、相談窓口を設け、担当者が家族からの不満や要望を聞き、それらと運営に反映させるよう心掛けている。問題があった場合等は運営推進会議などで報告するようになっている。		現状通り取り組んでいきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者や各ユニットリーダーが運営に関する職員の意見を聞き、その都度、管理者に伝え、話し合いを儲け、運営に反映させている。		現状通り取り組んでいきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	様々な状況に応じて勤務の調整を行い、柔軟な対応を心掛けており、利用者様ご家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できるようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との関係を重視した職員配置を行っている。新しく職員が入る場合は、利用者様・ご家族へ紹介し、利用者様が混乱しないように配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し手生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員の募集、採用にあたっては、性別・年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員がその能力を十分に発揮し、いきいきと勤務できるよう、管理者・責任者が配慮している。また、研修のお知らせをし、自由に参加できる環境を整えることで、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるように配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部評価に参加し、内部研修で皆で学ぶ機会を持ち、その後資料を回覧し、周知徹底に努めている。	今まで以上に積極的に取り組んでいきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修に参加を促し、技術知識の向上に努めている。また、参加できなかった職員には参加した職員が内部研修で報告し、資料を回覧することで、周知徹底に努めている。日常の業務でも、相互に注意試合、学べるよう、職員間でのコミュニケーションが取りやすく、働きやすい環境が維持できるように配慮している。	現状通り取り組んでいきたい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、親睦会や勉強会などで同業者との交流の機会を持ち、情報交換をすることで、ネットワーク作りを行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。	今まで以上に積極的に取り組んでいきたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減を目的とした職員同士の交流会を行っている。また、運営者が食事会を開催し、話しやすい環境づくりを計画している。	現状通り取り組んでいきたい。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の心身の健康が第一と考えており、年1回健康診断を行い、また、管理者や責任者ができるだけ話や悩みを聞くように努め、仕事に影響が無いように環境を整えている。職員一人ひとりに担当の利用者様を決め、責任をもって仕事に取り組めるようにしている。	現状通り取り組んでいきたい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面接に行き、ゆっくりと話を聞き、困っていること、不安なこと、求めていることなどを受け止め、それに対し、本人が入居する前までにできる限り環境を整えることができるように努めている。	現状通り取り組んでいきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接時、問題点を聞き相談にのり、問題に対しての解決策を話し合い、安心して生活できる事を伝えている。また、また、入居後も問題があれば相談していただき、すぐに問題解決の話し合いができることも伝えている。	現状通り取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族との話し合いの上、最も必要性の高い支援、サービスを考慮し、対応している。	現状通り取り組んでいきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に少しでも職員になれていただくよう、面接に行った際にゆっくりと話を聞くように心掛けている。また、入居前にホームに見学に来ていただくなど、利用者様やご家族と相談しながら利用者様が混乱しないように時間を工夫している。	現状通り取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションを大切に、相手の立場に立って傾聴し、考え、尊敬と感謝の心で接している。また、利用者様が得意とされることを職員に話していただけるような場面をつくり、一緒にできることはないか等、ミーティング等のときに話し合い実行できるよう、よい関係作りに努めている。	今までと同様、利用者様の今できることやしたいことを見つけ、実行できるように援助していきたい。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の中で、ご家族にも参加していただける行事を計画し、年に数回実行している。その中で、職員と利用者様の現状を話したり、一緒に一部介助などをすることで、時間を共有し、楽しんでいただけるよう工夫している。また、病院受診やお散歩など、ご家族と一緒にいらっしゃるなど、関係が途絶えることなく、利用者様と一緒に支えている。	利用者様とご家族の皆様と一緒に過ごす時間が増えるよう、今まで以上に積極的に取り組んでいきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に参加していただいたり、毎月のグループホーム新聞や日常生活の状態報告書をご家族に渡すことで、日常生活の様子を知っていただくよう努めている。また、暑中お見舞いや年賀状を出し、家族間の絆がなくなるように支援している。	現状通り取り組んでいきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともとホームの近所に住んでおられた方が多く、旦過市場や近所のお店になじみ深い方が多いため、関係が途絶えないよう定期的に買い物や散歩に行っている。	現状通り取り組んでいきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況を見て、職員が間に入り、会話を盛り上げ、笑顔を大切に接し、楽しく、マイペースな生活が送れるように努めている。	利用者様の精神状態に個別に対応しており、不穏状態にある方については特に注意して見守りし、トラブルが発生しないよう、事前に職員が介入するようにしている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近所でお会いした際には話しかけ、様子を伺い、関係がなくなるように大切にしている。また、在宅復帰されても、再度居室に空きがあれば入居できることを伝え、空きがない場合でも状況に応じて相談をうけ、ニーズに応じた関係機関を紹介するなど、利用者様やご家族が満足したサービスが提供できるように支援している。	現状通り取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望する生活の実現に向けて、生活暦や日々の会話の中からその内容の理解に努め、意向にそえるよう掛けている。また、困難な場合は、それぞれユニットミーティング等で話し合い、本人の意向に近づけるよう努めている。	現状通り取り組んでいきたい。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日々の会話の中から生活暦を理解し、また、家族からの情報により把握に努めている。	現状通り取り組んでいきたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	規則正しく、その人らしく生活できるよう、心身の状態を理解し、日々の変化などから状態把握に努めている。	現状通り取り組んでいきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング前に家族より話を聞き、ユニットミーティングでモニタリングを行い、目標を確認している。会議の内容をふまえ、計画作成担当者が介護計画書を作成している。	現状通り取り組んでいきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、短期目標が達成できているか確認している。達成された場合は、新たに目標をたてて新しく計画を作成している。状態が急変し、計画を再考する必要がある場合は、ユニットミーティングで話し合い、計画を見直している。	現状通り取り組んでいきたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録の様式を全体ミーティングで話し合い、今まで以上に情報を豊富にし、利用者様の一日の様子が一目でわかるように改善した。介護記録やモニタリングを通じ、現状把握に努め、介護計画を定期的に見直している。	介護記録の様式を改善し、日々の様子、ケアの現状をその日の職員が把握し、気づきや工夫などは朝夕の申し送り時に話し合い、また、グループホーム日誌などにも記入している。休みの職員には、必ず口頭で伝えるか、申し送りノートに記入し、情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医院、デイケア、介護支援センターが併設しており、利用者様やご家族の要望に応じて相談し、支援している。	現状通り取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	子どもが好きな利用者様が多いので、近隣の保育園と交流し、子どもたちとのふれあいの時間をつくっている。また、消防署の方に来ていただき、併設のデイケアにて利用者様や地域の方と一緒に救命講習をうけた。	消防署の方を講師としてお招きし、救命講習を開催した。今後も継続していきたい。また、必要に応じてボランティアも積極的に受け入れ支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身体機能の維持やリラクゼーションを目的として、訪問マッサージを利用したり、歩行状態が悪く精神的に不安定な方には、訪問歯科や併設医院院長の往診を受けていただいている。利用に際しては利用者様に無理負担なく利用できるように、必要な情報を事業所へ提供したり、ご家族へ説明するなどの支援を行っている。	今後は、現在受け入れているサービスに加え、訪問理美容サービスを受け入れるよう計画しており、より利用者様の意向やニーズに対応できるよう支援していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターの方との意見交換や助言を頂き、それをプランに反映させている。利用者様の総合的なケアについて相談できるようになった。	現状通り取り組んでいきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特にかかりつけ医の指定がない利用者様は、併設の医院に定期的にご家族もしくは職員が付き添い受診している。他の病院にかかりつけ医がいる場合は、ご家族より受診結果を聞き、必要な場合は介護に取り入れている。内科以外の場合は、かかりつけ医にその症状にあった病院を紹介していただき、ご家族に連絡し、受診するようにしている。	現状通り取り組んでいきたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的にかかりつけ医を受診し、必要がある場合は病院を紹介していただいている。また、受診時には、助言指導を受け、認知症の悪化防止に努めている。	現状通り取り組んでいきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設医院の看護職員と、日々利用者様の状態を相談し、日常の健康管理を支援している。	現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際には、病院の医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、状態把握に努め、できるだけ早く退院できるように努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の指定書を作成し、ご家族に記入していただき、利用者様、ご家族、医師と話し合い、方針を確認している。ホームでは24時間医療体制が整っていないため、常時医療行為が必要になった場合の受け入れは現状としては難しい。		入居時に、急変時における指定書を記入していただき、方針を明確にすることで、急変時の対応が迅速にできる体制を整備した。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様が重度化してきた場合、かかりつけ医と話し合い、状態を把握してできること、できない事を見極め、職員が一丸となって支援するようにしている。また、今後の変化に備えて、話し合いの場をもち、準備、検討している。		入居時に、急変時における指定書を記入していただいている。終末期におられる利用者様の受け入れについて関係者間で話し合った。できる限り指定書に従って意見を尊重したいが、24時間の医療体制が整っていないことや、ご家族の控え室がないなど、ハード面においても整っていない為、現状での受け入れは難しい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に退去後に関わるケア関係者へ情報提供を行い、退去前に環境を整え、できる限りダメージを最小限にとめることができるよう努めている。		現状通り取り組んでいきたい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに気をつけ、利用者様に対して尊敬の心を持ち、話すように心掛けている。権利擁護の勉強会の中で、尊厳についても職員全体で勉強した。言葉に気を配り、プライバシーを守るように心掛けている。		利用者様に危険が及ぶ時は、つい強い口調になることはあるが、日常的には、優しい言葉で話すように心掛けている。また、なれなれしい対応になってしまうこともあるので、職員同士その都度注意し、改めるよう心掛けている。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様が自己決定できるよう、声かけし、自分の意思が表出できるように支援している。利用者様にとって良いと思われることを、自己決定を待たずに先走ることがあるので、職員同士の声かけで防止していきたい。		現状通り取り組んでいきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の職員の人数で多少異なるが、「今日は何がしたい」と尋ね、散歩やレクリエーションなど、利用者様それぞれのペースにあった生活でゆっくり楽しく過ごしていただけるよう、心を開いた会話と支援をしている。		レクリエーションなどの参加は声かけし、拒否した場合は無理強いせず、見守りをしている。また、個別性を重視しており、できることやしたいことを確認しながら支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝紙をセットしている。外出時には、一緒に洋服を選び、女性であればお化粧をするなどおしゃれをしている。男性は毎日の髻剃りに努めている。利用者様の身だしなみには配慮しており、実際、利用者様は、満面の笑みを浮かべたり、鏡の前に立つことが多くなった。	現状通り取り組んでいきたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けを一緒にしている。食事は職員が作っているが、手作りおやつを一緒に作ることもあり、特に女性の利用者様に限っては張り切って参加している。また、活発な利用者様に影響され、以前に比べ利用者様全員の活動性が増してきた。	現状通り取り組んでいきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の様子や時間をみながら楽しめるように支援している。しかし、持病を持っている方の場合には医師の指示の元、できる限り楽しんでいただけるように支援している。	現状通り取り組んでいきたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿・便チェック表を利用し、排泄パターンの把握に努めている。時間ごとのトイレの声かけとは別に、利用者様の訴えを大切に、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄研修に参加し、情報を持ち帰り、それぞれ利用者様にあった下着をつけていただくようにしている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は、火曜日と金曜日に決めており、時間についてはその日の予定や体調にあわせている。以前より週3回にできないか検討しているが、利用者様の混乱や安全な入浴サービスの提供を考えると休息な対応は困難である。また、利用者様の重度化もみられ、現状が精一杯の状況。しかし、必要に応じてはシャワー浴で対応したり、予備日として土曜日を設けている。	
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じた室温調整や、寝具の清潔に努めると共に、希望や体調に応じて各居室で昼寝や休息をしていただいている。昼間寝ると夜間不眠になってしまう利用者様には、日中できる限り体を動かしていただき、夜間ゆっくりと眠れるように支援している。	現状通り取り組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別に楽しみがもてるように散歩や買い物を通じて気晴らしの支援している。また、生活歴を把握し、利用者様一人ひとりにあった役割を探せるようにミーティング等で話し合い実行している。また、活発な利用者様に影響を受け、利用者様一人ひとりの役割が確立してきた。	現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩に行った時の買い物や大型スーパーへの買い物ツアーにて、お好きなものを買っていただくようにしている。また、購入時はお財布からご自身でお金をだしていただくように心がけ、金銭感覚がなくなるように支援している。また、お小遣いをご家族からホームがお預かりする場合、毎月、金銭管理報告書と領収書をご家族に渡し、収支を明確にすることで、ご家族にも安心していただけるよう支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様の希望する生活の実現に向け、様子を見て声かけし、できる限り要望にこたえることができるよう支援している。		現状通り取り組んでいきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事で普段行くことができない所へ外出している。また、行事の際にご家族へ声かけし、一緒に楽しんでいただけるよう配慮している。個別の対応としては、ドライブに行ったり、昔通っていた理容室へ行くなど、外出支援をしている。		毎月の行事にご家族が参加できる機会を増やし、一緒に過ごす時間を増やしていきたい。また、個別の対応も増やしていきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらっている。ご自分で電話をかけることができない利用者様には、職員が介助している。頻繁にご家族へ電話をしたがる利用者様については、ご家族の理解の下、様子を見ながら対応している。毎年、暑中見舞いや年賀状を送付している。		現状通り取り組んでいきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるグループホームを目指しており、玄関前に花を植え明るくしたり、いつも笑顔で、また歓迎の心で挨拶したりと、気軽に訪問していただけるように職員一同工夫している。		現状通り取り組んでいきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部研修に参加し、全体で勉強会を開き、身体拘束についての理解に努めており、福祉用具を利用したり、必要があるなら病院受診など、試行錯誤しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在身体拘束はしていない。		勉強会を定期的に開催し、身体拘束について正しく理解し、引き続き身体拘束ゼロを継続していきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは、日中玄関には鍵はかけておらず、自由に開け閉めができるようになっている。しかし、ホームの周囲は道が狭く、交通量も多いため、利用者様の安全のため、外出時にご家族もしくは職員が必ず同行するようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様の所在を確認し、また、環境整備に努め、危険箇所を少なくすることで、利用者様の安全に配慮している。また、地域の方と顔なじみになったり、警察に協力していただき、安全に生活していただけるよう配慮している。夜間は基本的に3時間おきに監視しているが、離床センサーやフットセンサーを利用されている方もおられ、起きてこられた時にはすぐに対応できるようにしている。		現状通り取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品に関しては、置く場所を決めており、また、各利用者様担当の職員が環境整備を一緒に行い、安全に過ごすことができるように一人ひとりのレベルに合わせて危険を取り除いている。		現状通り取り組んでいきたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの事故のリスクについてミーティング等で話し合うと共に、専門職から助言をもらい、事故防止に努めている。また、ヒヤリハット報告書を記入し、職員全員で回覧し、対策を考えることで、事故を未然に防ぐことができるよう努めている。		転倒、窒息、誤嚥などの事故を防ぐ為の知識を学び、職員全員がレベルアップし、事故予防に努めていきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の方に来ていただき、心臓マッサージやAEDの使用方法などの講習を行い、急変や事故発生時に備えている。		今後も継続していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練を実施し、昼夜問わず入居者が避難できるように訓練している。また、買い物や散歩を通じて、近隣の方とも顔なじみになるよう心掛けている。		現状通り取り組むことはもちろん、消防署の方との訓練も行っていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族の面会時に昼夜の状態を話し、起こりうるリスクについても話をしている。また、面会時以外でも、特別な変化が生じた場合、連絡し、今後考えられるリスクについて説明している。リスクへの対応については、ご家族にも相談し、利用者様に圧迫感の無い生活をしていただけるよう心掛けている。		現状通り取り組んでいきたい。
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変など、毎日の日誌に記録し、また、朝・夕の申し送り時に情報を共有するようし、利用者様の状態変化に早期に対応できるよう努め、かかりつけ医に報告している。		現状通り取り組んでいきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人カルテに内服薬について記録し、理解している。状態の変化、処方など変わった場合、申し送りをし、連絡ノートに記載し、職員に伝わるようにしている。また、内服時は、内服し終えるまで、付き添うように徹底している。		内服薬の記録様式を変更し、把握しやすいように工夫している。薬が変更になった場合は、その都度医院に確認し、理解に努めている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防と運動能力を兼ね、毎日身体を動かすよう、体操をしたり、便秘解消に良いとされる食材でジュースを作り、おやつにだしている。排便チェックをしており、便秘がちな利用者様にかんしては、かかりつけ医と相談し、薬を処方していただいている。		現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様の能力に応じた支援で、一日3回毎食後口腔ケアを行っている。必要時には、歯科医に相談している。		現状通り取り組んでいきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎回把握し、チェック表に記入している。食事の量や形態も個別に対応し、盛り付けを工夫するなど、おいしく召し上がっていただけるよう工夫している。		好き嫌いや食欲低下時においては、その時その時の対応で、盛り付けを工夫したり、別のものを抵抗して対応している。また、医師との相談の上、栄養補助食品にて対応する場合もある。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作り、手洗い、うがいに注意し、実行している。また、トイレや手洗い場に手洗い方法や汚染時の対処法をいつでも目に付くところに貼っている。感染予防のため、全館ペーパータオルを使用している。		現状通り取り組んでいきたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や水回り、コンロ、換気扇など衛生管理について、職員間で取り決めを行い、実行し、清潔を保っている。食材に関しては、旬な素材で新鮮なものを使用している。		現状通り取り組んでいきたい。
82 (1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植え、かわいい表札を作り、親しみやすい雰囲気作りに努めている。花を植えたり、表札をつけることで、それが目印となり、利用者にとって家がわかりやすいように工夫している。		現状通り取り組んでいきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとってなじみやすい音楽や心地よい照明、室温、湿度に配慮している。生活観は、インテリアで工夫している。季節感については、花見やお正月、クリスマス、節分などの季節の行事であじわっていただけるよう工夫している。		現状通り取り組んでいきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にダイニングテーブルやソファがあり、それぞれ思うがままに生活していただいている。		現状通り取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や小物など、利用者様の好きな物、入居前に使っていた収納家具、布団などを持ってきていただき、おちついて居心地よく過ごしていただけるように工夫している。また、入居の際は、入居前にできるだけ早くホームの生活にとけこむことができるよう、居室の環境整備をしていただくよう、ご家族にお願いしている。		現状通り取り組んでいきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においや空気がこもらないように、換気や空気清浄機を使用している。また、湿度、室温調整も行い、快適な環境の中で生活していただいている。		現状通り取り組んでいきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室の場所を状態に合わせて自立した生活が送れるように考えている。家具の配置にも配慮し、あんしんしてせいかつがとれるよう工夫している。また、利用者様の状態に応じて、移動の手段として車椅子を取り入れる事もある。浴室やトイレに手すりをつけ、できるだけ自立した生活を送ることができるよう配慮している。		現状通り取り組んでいきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が生じた場合は、その状態に応じて、声かけや傷つけないような配慮をしている。また、状況に応じて環境整備も行っている。		現状通り取り組んでいきたい。
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者様と一緒に建物の玄関周りの空間を利用し、季節に応じた草花を植え替えたり、できる方には水やりを手伝っていただいている。また、夏にはそうめん流しや花火など楽しんでいる。		空間を活用する機会を増やしていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月の行事
- ・スキルアップ研修に参加する
- ・一日のレクリエーション（散歩、体操、頭の体操 等）
- ・笑顔で過ごせるよう心掛けている。